【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成28年8月12日(2016.8.12)

【公開番号】特開2015-64709(P2015-64709A)
【公開日】平成27年4月9日(2015.4.9)
【年通号数】公開・登録公報2015-023
【出願番号】特願2013-197693(P2013-197693)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｑ　10/00　　(2012.01)
Ｇ０６Ｆ　 9/44　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｑ　10/00　　１４０
Ｇ０６Ｆ　 9/06　　６２０Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年6月27日(2016.6.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項８】
請求項６または７のいずれかに記載の要件定義工程支援装置において、
前記記憶手段は、前記施策として、当該施策を適用することで変化が生じる対象情報を付与して記憶し、前記業務として、当該業務で扱われる対象情報を付与して記憶しておき、
前記抽出手段は、前記施策および業務で共通となる対象情報をもとに、前記施策と前記業務の対応関係を特定し、少なくとも1つ以上の業務に割り当たっていない施策を抽出することを特徴とする要件定義工程支援装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。本実施形態に係る要件定義工程支援装置1000は、図1に示すように、用語辞書登録部1101、用語辞書記憶部1102、施策編集部1201、施策記憶部1202、施策間関係編集部1301、施策間関係記憶部1302、業務編集部1401、業務記憶部1402、施策・業務関連マトリックス作成部1501、施策・業務関連マトリックス記憶部1502、施策・業務関連マトリックス提示・編集部1503を有する。なお、（１）図中の矢印は、構成要素間におけるデータの流れを示す、（２）また、各部は、ソフトウエア(プログラム)で実現され、コンピュータである要件定義工程支援装置1000がプログラムに従ってＣＰＵの如き演算装置で演算を実行することで、各部の機能を達成する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】

図3は、施策記憶部1202で記憶される施策に関する情報を格納するためのテーブルである。施策名3001、対象名3002により記憶する。施策名3001は、階層的な記録を許容する。施策の情報は、表計算ソフトなどで、同様の構造の情報を作成し、施策編集部1201が読み込むことによって、施策記憶部1202に記録する。